

QUARTERLY JOURNAL OF JAPAN SCIENCE FOUNDATION / SCIENCE MUSEUM

JSF TODAY

NO.179/WINTER 2026

特集 = 科学技術へのドアはどこにでもある

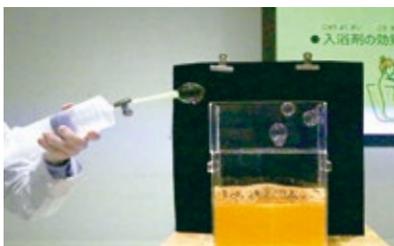


公益財団法人 日本科学技術振興財団・科学技術館

目次

●巻頭言	3	● REPORT II	18
「新技術立国」の実現へ、一層の飛躍を目指して 2026年・年頭挨拶 公益財団法人 日本科学技術振興財団 専務理事 山口 雅彦		地域でつながろう。そして輪を広げよう！	
●特集	4	新生「千代田ミュージアムネットワーク」始動！	18
科学技術へのドアはどこにでもある		「魅力発見！千代田ミュージズ & パークシールラリー」に 科学技術館も参加しました	
飛行機の面白さを伝え、次世代の関心を喚起	5	地元の高校生ボランティアが子どもたちを笑顔でサポート	19
「科学技術館 航空宇宙 STEM ワークショップ～飛べ！跳べ！翔べ！～」		「冬だけど、海の科学教室」に千代田区・二松學舎大学附属高の 生徒たちが参加	
科学実験でお風呂をさらに楽しく！	7	科学の祭典は「地方大会」もおおにぎわい！	19
実験スタジアム・常設実験ショーに「お風呂でじっけん！」が新登場		秋の「青少年のための科学の祭典」地方大会から	
多種多様なパズルが大集結した2日間	8	● REPORT III	20
「第12回 東京パズルデー 2025 in 科学技術館」		季節のイベントを演出する	
仲間たちとかけた Big Bridge	10	「サイエンス・マルシェ at クリスマス」の試み	
「小学生ロボコン 2025」		● MINI TOPICS	22
● REPORT I	12	歴史学習と実体験を通じて、もっと「鉄」を知る	
これからも理科の先生たちを支えるサポーターとして		「ものづくり体験—たたら製鉄実験イベント」	
ベテラン教師が伝授する「すぐ授業に生かせる理科実験」	12	きみは最後までボールをゴールに運べるか？	
2025年度「教員のための理科実験スキルアップ講座」		新展示物「ゆらゆらバランスボール」が登場！	
理科教員に授業で観察実験を	14	リニューアル前の記念館（展示館）をオンラインで楽しもう！	
2025年度「若手教員を対象とした理科実験（実習）研修会」		「バーチャル！所沢航空発祥記念館」公開中	
● TOPICS	16	● JSF 掲示板	23
「科学技術映像祭」をもっと身近に！	16	● なにこれ!? 科学技術館事典	24
ミウラ折りリーフレットが完成しました			
熟睡版ライブショー、香りで癒やしの時間を演出	17		
科学ライブショー「ユニバース」〈熟睡版?! 熟睡ブラ寝たリウム〉			

【表紙解説】



◇オレンジ色の液体の泡の上を、いくつかのシャボン玉がふわふわと浮かんでいます。ちょっと不思議な光景ですが、これは左の写真のとおり、水槽の中に投入されたばかりのシャボン玉。科学技術館「実験スタジアム」で新年からスタートした新プログラム「お風呂でじっけん！」（アース製薬出展）の一場面で、お風呂に見立てた水槽の水の中に発泡入浴剤を入れて、ある実験を行っているところです。

◇お風呂で入浴剤をお湯に入れると、ブクブクシュワシュワ〜と泡が出てきて、あったまって気持ちいいですよ。あの至福の時間を、このプログラムでは科学の視点で捉え直しています。このシュワシュワの正体は、炭酸ガス、

すなわち二酸化炭素なのですが、この二酸化炭素は空気よりも重いので、水面付近にたまっていきます。では、その中に投入されたシャボン玉は、このあと一体どうなるでしょう？ 観察のポイントは、ぜひ p.7 の記事にてご覧ください。

◇その昔、古代ギリシャの数学者アルキメデスは、お風呂からお湯があふれ出し、体が浮かぶ感覚から「浮力の原理」を発見し、「エウレカ！（分かった!）」と叫んだといわれています。科学的な発見は、日常の何げない現象から導かれる“気づき”から始まるのかもしれませんが。今号では、そんなきっかけを「どこにでもあるドア」と呼んでみました。（永）

「新技術立国」の実現へ、一層の飛躍を目指して

2026年・年頭挨拶



公益財団法人 日本科学技術振興財団
専務理事 山口 雅彦

あけましておめでとうございます。謹んで新年のお慶びを申し上げます。皆様におかれましては、日頃より日本科学技術振興財団の活動に対してご理解とご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。

我が国の科学技術振興の歴史を紐解けば、1995年（平成7年）11月に「科学技術基本法」が施行されました。この法律は、科学技術の振興に関する施策を総合的かつ計画的に推進することにより、我が国の経済社会の発展と国民の福祉の向上に寄与することを目的とした、我が国初の科学技術振興のための法律でした。

そこから溯ること35年前の1960年、当財団は科学技術の水準の向上に寄与することを目的に、産・学・官の総意によって創設されました。その4年後には科学技術という言葉そのものを建物の名前に入れた「科学技術館」を開館し、これまでに多くの来館者を迎えてきました。60年以上前から今日の礎を築いていただいた先人たちには感謝するしかありません。その意思を引き継ぎ、財団ではこれまで科学技術館の運営の他に、科学技術系人材育成、科学技術普及開発、教育文化施設プロデュース、所沢航空発祥記念館の運営管理などの科学技術振興事業を展開してまいりました。

さて、2026年は一体どんな年になるのでしょうか。2025年の12月の政府の定めた総合経済対策は、補正予算で18兆円程度の規模となり、その多くを物価高対策に充てました。ただ、「総理が掲げる強い経済を実現するためには、その基盤となる人への投資や科学の再興を通じた新技術立国の実現こそが重要」（2025年11月、松本洋平文部科学大臣記者会見より）であると、科学技術分野に

も補正予算、来年度の政府予算案にも前年を上回って配分される見通しとなりました。また、昨年開催された大阪・関西万博でも多くの方が会場に駆け付けて、将来の科学、科学技術分野にも興味を持っていただけました。こういった動きは、当財団の活動にも、きっと追い風となることでしょう。

古くから言い尽くされた言葉ではありますが、資源の少ない我が国では科学技術の発展なくしては持続的な成長は期待できません。AIや量子コンピューターなど新技術が急速に進展し、同時に社会にさまざまな課題が山積するなか、子どもたちが科学技術への理解を持ち、社会課題を解決できる未来の理系人材として育っていくことが、そして、そのような人材を育成することが、我が国の重要な課題となっております。子どもたちが小さな頃から科学、科学技術に親しみ、好奇心や創造性を持って未来をつくる力、社会をよくする力を育む環境を提供することが極めて重要であり、そのために当財団がお役に立ちたいと考えております。

昨年、大阪大学の坂口志文氏がノーベル生理学・医学賞を、京都大学の北川進氏がノーベル化学賞を受賞されました。40年後、50年後の日本からのノーベル賞受賞者が、「科学のおもしろさや楽しさを知ったきっかけが科学技術館訪問であった」とコメントしていただけるような財団、科学技術館の運営に取り組みたいと考えております。

私たちは、「科学技術振興に関する諸事業を総合的に推進し、我が国の科学技術水準の向上に寄与する」というミッションを胸に、一層の飛躍を目指して努力いたします。今後も皆様には当財団の活動に対するご理解とご支援を賜り、共に歩んでいくことをお願い申し上げます。

写真：2026年1月に科学技術館で開催した「ゴジラサイエンス展」会場にて ※同展は2026年1月27日に終了しております。 TM & © TOHO CO., LTD.



特集

科学技術へのドアはどこにもある

何げない日常の中には、科学や技術への学びの入り口が無数に存在します。空を見上げて「なぜ鳥や飛行機は飛ぶんだろう」と思いを馳せたり、お風呂に入れば「なぜ体は浮くんだろう」と疑問が湧いたり。そうした問いかけこそが、広大な科学の世界へと導くドアにほかなりません。当財団・科学技術館ではこの秋冬も、飛行機やお風呂、パズル、ロボットといった身近なテーマを切り口に、子どもたちが自らドアを開くことを願って多彩なイベントを行いました。私たちは、まだドアが見つからない子どもたちにも「ドアはここにあるよ」とそっと示す、案内役でありたいものです。



「科学技術館 航空宇宙 STEM ワークショップ」より。左上)「ミライにはばたけ.ANAの航空教室」で一斉に飛行機を飛ばす子どもたち/右上)「JAL STEAM SCHOOL」で、シミュレーターを使い、翼の検証実験をする子どもたち/中) 米村でんじろう先生によるサイエンスショーでの、巨大風船を使った実験の様子/左下) 科学技術館の新プログラム「お風呂でじっけん!」での浮力の実験の様子/中下)「東京パズルデー 2025」にてパズル「モジキューブ」を楽しむ子どもたち/右下)「小学生ロボコン 2025」全国大会表彰式の様子。大人とともに OBら(右)も審査員に

飛行機の面白さを伝え、次世代の関心を喚起

「科学技術館 航空宇宙 STEM ワークショップ～飛べ!跳べ!翔べ!～」

ボーイング社 共催

2025年11月、科学技術館にて、ボーイング社との連携により、毎年恒例の航空宇宙ワークショップを開催しました。当日は、飛行機の大迫力の映像上映と解説、楽しいサイエンスショー、さまざまなワークショップなどを行い、子どもたちに空への憧れと科学技術への関心を強く喚起する機会となりました。



ボーイング社エグゼクティブダイレクター・小林美和さんが、飛行機と航空産業について解説。参加者が熱心に耳を傾けていた

2025年11月3日(月・祝)、「科学技術館 航空宇宙 STEM ワークショップ～飛べ!跳べ!翔べ!～」をボーイング社共催のもと開催しました。このイベントは、ボーイング社が推進する科学技術系人材育成のための社会教育活動「STEM プログラム」の一環として、同社の助成を受けて実施しています。今回は定員200名(小学1年生～中学3年生)のところ、約600名を超える応募がありました。

開催に先立ち、当財団の山口雅彦専務理事が挨拶を述べ、STEM教育が、Science(科学)、Technology(技術)、

Engineering(工学)、Mathematics(数学)を統合的に学習することで、分野横断的な学びを醸成し、社会のさまざまな問題を創造的に解決する力を養う取り組みであることを紹介し、「楽しみながら学んでいってください」と参加者に語りかけました。

続いて、ボーイング社のエグゼクティブダイレクター・小林美和さんが登壇し、飛行機の魅力とともに、航空産業において日本が果たす重要な役割についてもお話いただきました。その解説の途中で大迫力の飛行機の映像が流れると、参加者の目は釘付けになり、この日のプログラムへの期待を高めながら、飛行機への関心を深めている様子でした。

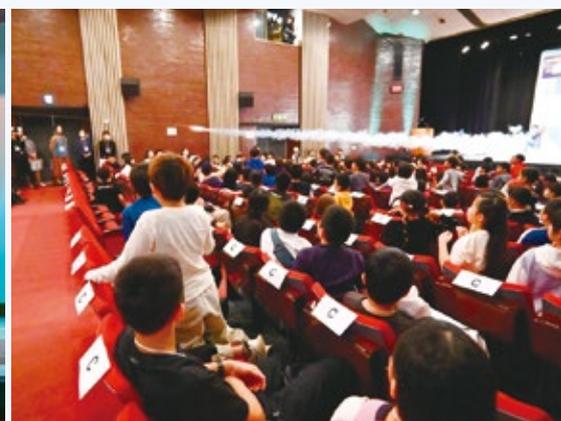
■「将来飛行機をつくる時にこの体験を思い出したい」

その後、参加者は、航空や飛行をテーマとしたサイエンスショーと3つのプログラムを体験しました。今回のイベントの参加者の感想の中には、「将来飛行機をつくる時にこの体験を思い出したい」といった将来の夢を描いたような声もみられました。今後もボーイング社と連携して、楽しみながら科学技術の面白さを学べるSTEM教育プログラムを展開し、次世代の理系人材育成に貢献していきたいと思います。

飛行をテーマにしたサイエンスショーは今回も大盛況!

「飛行のヒミツを解き明かせ!?!～でんじろう先生と学ぼう わくわく飛行実験!!～」

サイエンスショーがいよいよ始めると、テレビでおなじみの米村でんじろう先生が登場し、ブーメランや、熱気球、ロケット等、さまざまな実験が目白押し。でんじろう先生は、「どうして飛行機は空を飛ぶの?」「人はいつから空を飛んだの?」といった飛行の原理や歴史を、驚きの実験と身近な道具で解き明かしていきます。参加者からは「とても楽しかったです。科学に興味をもつきっかけになりました」、「液体窒素のロケットがおもしろかったです」といった感想も。サイエンスショーの参加者は小学1年生以上で、学年を問わず、楽しみながら飛行機の仕組みを学ぶことができた様子でした。



投げると弧を描いて戻ってくるペーパーブーメランを飛ばしたり、会場全体を使って液体窒素を使ったロケットを飛ばしたり、おもしろ飛行実験がいっぱい!

実践的な学びを深める3つのワークショップを実施

グライダー工作で飛行の仕組みを体験！

「飛行機の秘密に迫る！ 君も未来のエンジニア ?!」



左) サイエンスショーにも登場したジャイアン村上先生が、グライダーの仕組みを丁寧に解説/右上) プラスチック・ケースで作った気流を利用して、グライダー飛行にチャレンジ。サイエンスショーで行った実験を実際に体験してもらった/右下) スチロールカッターの解説を真剣に聞く子どもたち

米村でんじろう サイエンスプロダクションの協力によるワークショップでは、グライダーの工作を通じて飛行の仕組みを体験的に学んでいきました。参加者は翼の調整や気流の作り方を体験し、グライダーのコントロールに挑戦。会場では、グライダーの翼の角度を入念に変えて試行するなど、積極的に実験に参加する子どもたちの様子がうかがえました。参加者からは、「どうやったらうまく飛ばせるか分かって楽しかった」といった感想が聞かれました。

オリジナル飛行機をデザインして検証実験！

「JAL STEAM SCHOOL」

日本航空株式会社の協力によるワークショップでは、さまざまな形の翼を機体に組み合わせて思い通りの飛行機をデザインし、シミュレーターを使って試行錯誤していきます。航空力学の基礎を学んだ参加者全員に、最後に修了証が授与されると皆笑顔に。参加者からは「改めて飛行機について学べた」、「飛行機のことをもっと詳しく知りたい」との声が聞かれ、さらに知識を深めたいといった感想が多くみられました。



左) シミュレーターを使って、どんな形の翼ならうまく空を飛べるか検証中。JALのスタッフの皆さんも優しく子どもたちをサポート/右上) 自分のアイデアで翼の形をデザイン！うまく飛ぶかな？/右下) パソコンのシミュレーターを見ながら、仲間同士で話し合う子どもたち。航空力学に興味津々の様子

空の安全を守るさまざまな仕事にチャレンジ！

「ミライにはばたけ、ANAの航空教室」



左) 航空機整備士から、機体整備の仕事についての解説を熱心に聞く子どもたち/右上) パイロットとして目的地までのフライトプランづくりに挑戦！/右下) キャビンアテンダントになって、救命胴衣を実際に装着。飛行機を安全に飛ばすためのさまざまな仕事を実際に子どもたちに体験してもらった

株式会社 ANA 総合研究所によるワークショップはさまざまな職業に触れる内容でした。パイロット、キャビンアテンダント、航空機整備士の3つのコースに分かれ、参加者は、フライトプランの考案、機内サービスの検討、機体整備の仕事などを体験しました。「パイロットがどんなお仕事をしているのか知れて良かった」「空の安全の裏には整備士さんの地道な作業があることが分かりました」といった声が聞かれ、航空業界へのお仕事への関心を深めた様子でした。

〈経営企画室 加藤 太一、遠藤 奈央子〉

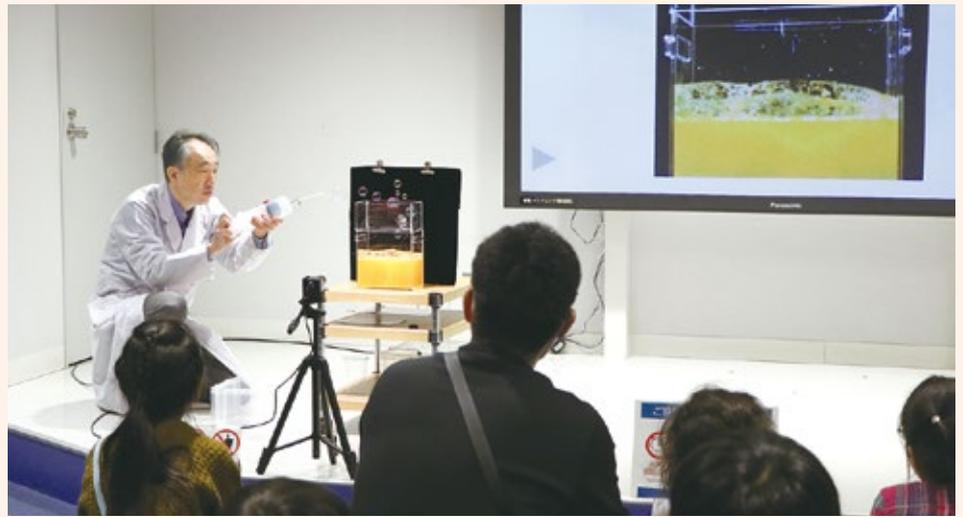
科学実験でお風呂をさらに楽しく！

実験スタジアム・常設実験ショーに「お風呂でじっけん！」が新登場

アース製薬 出展

科学技術館4階の「実験スタジアム」では、さまざまな常設の実験ショー・プログラムを行っています。2026年1月から、新たに「お風呂でじっけん！」がスタートしました。本プログラムでは、お風呂の中の「浮力」や「水圧」をテーマにした実験や、入浴剤を使った楽しい実験を行います。参加すれば、お風呂に入る時間が一層楽しくなることでしょう。

「お風呂でブクブク」 入浴剤を使った実験はこのプログラムの目玉。シャボン玉は水面に浮くかな？!



科学技術館では、昨年夏ごろから「お風呂」をテーマにした実験プログラムを新たに開発しておりました。その結果、このたび2026年1月4日（日）から、科学技術館4階「実験スタジアム」スタジアムRにて「お風呂でじっけん！」がスタートしました。今後、土・日・祝日の10:00から実施（定員36名の整理券制、約15分間）の常設プログラムとなります。

皆様は、「お風呂」と聞くとどのようなイメージを連想するでしょうか。「あたたかい」「きもちいい」「つかれがとれる」といったことが多いと思います。このプログラムでは、それらの元になる「お風呂の3大作用」といわれる「温熱」「浮力」「水圧」をどのように扱うかを検討の末、まずは「浮力」「水圧」を、さまざまな実験器具で分かりやすくお見せすることになりました。

■「浮力」「水圧」の実験で、お風呂の中での変化を観察

お風呂では浮力により体重が約1/9になるといわれています。そこで、お風呂でくつろいでいる姿の人体モデルを3Dプリンターで作成し、実際に水槽に入れて体重変化を観察していただくこととしました。ただ形を作るだけでなく、水中に入れたときにひっくり返って浮いてしまうので、1/9程度の体重でしっかり肩まで浸かれるよう、重りの量

と位置を細かく調整しました。体重計はデジタルではなく、視覚的に分かりやすいよう、アナログなレタースケールと同様の仕組みで製作しました。

浮力は、物体の上からかかる水圧より下からかかる水圧の方が大きいことにより発生します。そこで水圧の実験では、太鼓のようにゴム膜を張った箱を水に沈めて、左右上下のゴム膜のへこみ具合で水圧の大きさを実感していただけるようにしています。

■入浴剤とシャボン玉を使った楽しい実験も！

最後の実験では、アース製薬株式会社様の入浴剤を使います。ブクブクと発生する二酸化炭素による血行促進のお話をしているうちに、二酸化炭素は同体積の空気の1.5倍ほど重いので水面にたまってきます。これを利用してシャボン玉を浮かせるというチャレンジングな実験を行います。結構難易度が高いので一発ではなかなか成功しませんが、何発もシャボン玉を発射して、ついにふわっと浮いたときの喜びは格別なものがあります。

実験をご覧いただいた方には入浴剤と、お風呂のことを学べる冊子をプレゼントしております。皆様の日々のお風呂がさらに楽しくなることを願っております。

〈科学技術館運営部 丸山 義巨〉



「お風呂の3大作用」といわれる「温熱」「浮力」「水圧」についてモニターを使って分かりやすく解説



「お風呂でプカプカ？」 人形を使って「浮力」による体重変化を観察。体重計はあえてアナログに



「お風呂でギューギュー」 ゴム膜を張った箱を沈めて、左右上下のへこみ具合で水圧を可視化

多種多様なパズルが大集結した2日間

「第12回東京パズルデー2025 in 科学技術館」

日本パズル協会 主催

2025年11月、科学技術館にて毎年恒例の「東京パズルデー2025 in 科学技術館」が開催されました。会場には多くのパズルメーカーやスペシャリストが一堂に会し、工夫を凝らしたブース出展やワークショップなどを実施しました。さらに、館内を巡る高難度「謎解き」の新作も登場。2日間で約4,500人が来場し、今回も大盛況となりました。



2階の会場の様子。さまざまなパズルが体験できるブースが並んだ

体験ブースコーナー・パズル展示



2階の体験ブースコーナーは連日、パズル好きの来場者でいっぱい！

2階の会場前では「第6回パズルオーディション」で入賞した作品を展示

■ 地方から駆け付けて挑戦される来場者も

2025年11月8日(土)、9日(日)の2日間にわたり、第12回を数える「東京パズルデー2025 in 科学技術館」が開催されました(主催:一般社団法人日本パズル協会)。今回は当館の2階と4階のイベントスペースを会場としました。

2階では、パズルメーカーが集まり、世界のさまざまなキューブパズルが回し放題のブース、パーツをそろえて数字や文字を作る「モジキューブ」で遊べるブース、数独をはじめ鉛筆で書き込んで解くいろいろなパズルを体験できるブース、スピードパズルの世界のトップ選手の記録に挑戦できるブース、からくり箱を楽しめるブースなど多種多様なブースが並びました。

4階では、教室やワークショップ(次ページ参照)が開催されましたが、ほとんどのプログラムで定員が埋まる状況でした。

そして、恒例の当館の展示を活用した、大人向けの「科学技術館 オリジナル全館謎解き」も実施しました(次ページ参照)。第6弾の今回は、またさらに難易度が上がり、手慣れた方でも苦戦されるほどでしたが、これを目当てに地方から駆け付けて挑戦される方もいらっしゃいました。この謎解きは、パズルデー終了後も2026年5月末頃まで挑戦できます。

主催者の方に「今回のパズルデーの感触」について、出展者の方に「科学技術館でのパズルデーへの思い」について、コメントをいただきました。

主催者・出展者からのコメント

主催者

年々、大人のコアなファンも増えて
一般社団法人日本パズル協会
代表理事 星野 孝博 様

本年度は、早解き、早組みなどの競技を増やし、これまでも「大人向け」を謳っていた謎解きに加えジグソーパズルでも大人部門を作った結果、参加枠が不足するほどの人気でした。それもあり、会場内に大人だけのグループが目立ったのは本年度の特徴と言えます。謎解きは年々難易度が増していますが、コアなファンの数が増えているのを感じます。

出展者

新たな魅力の発信を
ジグソーパズルメーカー会
柴崎 雄大 様

これまで「ジグソーパズルを競技的に楽しんでいただく」機会はほとんどなかったため、新たな魅力として発信していき、いろいろな角度で楽しんでいただき、ジグソーパズルの面白さを再認識していただきたいと考えています。

教室・ワークショップ

■ 2日間で4,500人！多世代が集う場に

4階では、パズルを使ったさまざまな教室やワークショップが開催されました。オリジナルのパズルや紙で作った図形で体験しながら立体の不思議さを学べるプログラム、家族でも参加できるクロスワードパズルを解くプログラム、ジグソーパズルの早組み大会やスマートフォンやタブレットで専用のアプリを使って正確に円を描く大会、知恵の輪のようなパズル「はずる」の早解き大会など参加者が挑戦するプログラム、オリジナルのパズルを使って自分で問題を作るプログラムなど、子どもから大人まで楽しめるさまざまなプログラムがそろいました。また、プロがスピードキューブの技を披露した後に来館者が挑戦する大人気のプログラム「スピードキューブ選手権」を今回も開催し、多くの方が参加しました。

今回のパズルデーもさまざまな年齢層の来館者の誘致につながり、2日間で約4,500人の方にご来館いただきました。
 (科学技術館運営部 中村 隆)



出展者
子どもたちの笑顔が嬉しい
 株式会社ニコリ
 制作部 笹 友信 様
 会場では数独などのパズルを来場者に解いていただきました。対面でスタッフから「解き方のコツ」を学ぶことで、子どもたちが「？」から「分かった!」と笑顔になる瞬間を見ると、こちらも嬉しくなります。

上) ニコリ出展のクロスワードパズルを解くプログラムにも多くの家族が参加/中) 4階の会場の様子。パズルを使ったさまざまな教室を開催/下) 4階の会場の奥にある工作室では、じっくりパズルを体験できるワークショップを開催した

「科学技術館 オリジナル全館謎解き」をロングランで開催中!

「東京パズルデー」関連イベントとして大好評をいただいている高難度の謎解きイベント第6弾を今年5月末頃まで館内でお楽しみいただけます。



上) 第6弾謎解きのシート。3階の科学技術館運営部・事務室の受付でお渡ししています/左下) 館スタッフの手作りによるクリア記念の小道具/右下) 「東京パズルデー」当日、2階ロビーの休憩テーブル席は、謎解きに挑戦する人々で埋まっていました

「脳空間に潜む脅威」最終解答後に、スタート地点で記念撮影された母娘での参加者。お母様は当館のファン、娘さんは謎解きファンでもあり、2人で協力しながら見事、謎解きに成功!



「東京パズルデー (TPD) 2025 in 科学技術館」の催しのうち、「科学技術館謎解き」(株式会社クロノス制作)の第6弾となる「科学技術館 ■ ■ 修復管理室」については、2025年11月19日(水)から改めて全館を巡ってお楽しみいただけるようにしています。受付の場所など、TPD会期中とはわずかに演出が変わっている部分がありますが、2026年5月末頃まで約半年間にわたって挑戦可能です。1日で終わらなかったとしても、後日のご来館の折りに、続きから取り組みます。また、2025年8月25日(月)からTPD2025前日の11月7日(金)までの約2カ月半には、TPD2023で実施した第4弾「脳空間に潜む脅威」を再演しました。TPD2023の2日間しかご体験いただけなかった謎解きを、改めてお披露目したかたちです。

謎解きイベントには、平日も含むほぼ毎日、謎解きをメインの目的にご来館くださる方がいらっしゃいます。千代田区内など近隣の謎解きイベントと“はしご”する方や、SNSで話題にしてくださいる方なども多く、引き続き館内の展示と併せてお楽しみいただければ幸いです。

(科学技術館運営部 松浦 匡)

仲間たちとかけたBig Bridge

「小学生ロボコン 2025」

小学生ロボコン実行委員会 主催

小学生ロボコン実行委員会（NHK エンタープライズ・科学技術館）主催の「小学生ロボコン 2025」は、2025 年度もさまざまな試みとともに全国大会を開催しました。その概要を紹介します。



各予選会を勝ち抜いたロボットと全国大会フィールド

■ミッションは「Great Big Bridge」

今回のミッションは、「フィールドに散らばっている土台（紙コップ）や橋（箸）を組み合わせ、より大きな橋をかけること」と設定しました。これは、アイデア対決・全国高等専門学校ロボットコンテスト（高専ロボコン）2025 の競技課題「Great High Gate」とも関連させたもので、「すごい！」「大きい！」橋をかける挑戦としました。

■試行錯誤が詰め込まれた、高レベルの予選会

例年どおり、小学生ロボコン実行委員会が主催する「とう



事前キャンプではいつもと違った環境で仲間と楽しむ

きょう予選会」と「ぜんこく共通オンライン予選会」からの選出に加え、全国各地で開催された予選会からの推薦で、全国大会出場選手を決定しました。

「とうきょう予選会」は、科学技術館 4 階 E 室「ワンダー・ガレージ」を会場に、2025 年 7 月 27 日（日）に開催しました。一般的には夏休みに入ったばかりで、また 2025 年最初の予選会であるため、ロボットの完成度や操作の習熟度には限りがあると思われましたが、この段階で素晴らしい機構や動きが見られ、6 月中旬に公開したルールブックがこれほどまで読み込まれているのかと主催者側も驚きました。

また、「ぜんこく共通オンライン予選会」は、例年どおり今年度最後の予選会として、9 月 15 日（月・祝）に行いました。自宅などからオンラインで参加できるこの予選会は、最長で 3 カ月分の試行錯誤が詰め込まれた、非常に高レベルな競技会となりました。

■事前キャンプから前日テストランまで

全国大会への出場権を手にした各地のロボコニスト 18 名が初めて一堂に会したのが、11 月 1 日（土）～ 3 日（月・祝）に行った事前キャンプでした。「高尾の森わくわくビレッジ」（東京都八王子市）にて、全国大会用のフィールドで予選会を勝ち抜いたロボットを操作したり、3 人 1 組のチームが編成されるや否や作戦を立てたり、全国大会で新たに登場



全国大会の表彰式。各賞の発表を前に選手たちも緊張



小学生ロボコン体験コーナーは各イベント会場で人気



全国大会含む「ROBOCON PARK 2025」は初の会場で エポルタ NEO くんも一緒に記念撮影。お疲れ様でした！ 高専ロボコン 2025 を観戦する小学生ロボコンニスト

するチームに1台のプログラミングロボットをプログラムしたりと、盛りだくさんの内容でした。

続く1カ月強は、チームごとに、オンラインの作戦会議を重ねました。そして12月6日(土)に「二子玉川ライズ」(東京都世田谷区)で再会し、翌日の全国大会に出場するためのロボットチェックを受けたり、最後の練習や作戦会議を行ったりして、本番に臨みました。

■盛り上がった初の二子玉川での全国大会

12月7日(日)、「二子玉川ライズ」スタジオ & ホールで「小学生ロボコン全国大会 2025」を開催しました。まずプログラミングロボットがランダムに決められたコースをライントレースし、その後1人1台の操縦ロボットが1分ずつ稼働、そして最後の1分半は3台全てが同時に動き、凄くて大きい橋をかけることに挑戦しました。

全ての土台と橋が組み合わせられた、まさに「Great Big Bridge」もかかり、興奮のままに2025年度の大会が幕を閉じました。

■「科学の祭典」「ROBOCON PARK 2025」も！

7月26日(土)・27日(日)に科学技術館で開催された「青少年のための科学の祭典」2025 全国大会にも、小学生ロボコン関連のブースが登場しました。「アイデア対決！小

学生ロボコン体験」のほか、本田技研工業株式会社「AIBOUに乗ろう 一初めての運転体験ー」、セメダイン株式会社「接着剤の基礎を学んでオリジナル壁掛け時計をつくろう!」、SMC株式会社「空気の力を体験しよう」の各ブースで両日盛り上がりました。

また、12月6日(土)・7日(日)の「二子玉川ライズ」では、親子向けイベント「ROBOCON PARK 2025」を開催しました。小学生ロボコン2025全国大会に合わせて、「親子で楽しむロボットづくりワークショップ」「はじめてのロボット体験」「東京高専ロボットデモンストレーション」や特別協賛・協賛企業によるクリエイティブ体験や講演などが会場いっぱい展開されました。

〈科学技術館運営部 松浦 匡〉

小学生ロボコン2025

<https://official-shourobo.com/>
<https://www.jsf.or.jp/info/robocon2025/>

主催：小学生ロボコン実行委員会

(NHKエンタープライズ、科学技術館)

後援：NHK、全国高等専門学校連合会

特別協賛：本田技研工業株式会社

協賛：株式会社Cygames、セメダイン株式会社、

パナソニック エナジー株式会社、SMC株式会社

協力：ユカイ工学株式会社、埼玉大学STEM 教育研究センター、

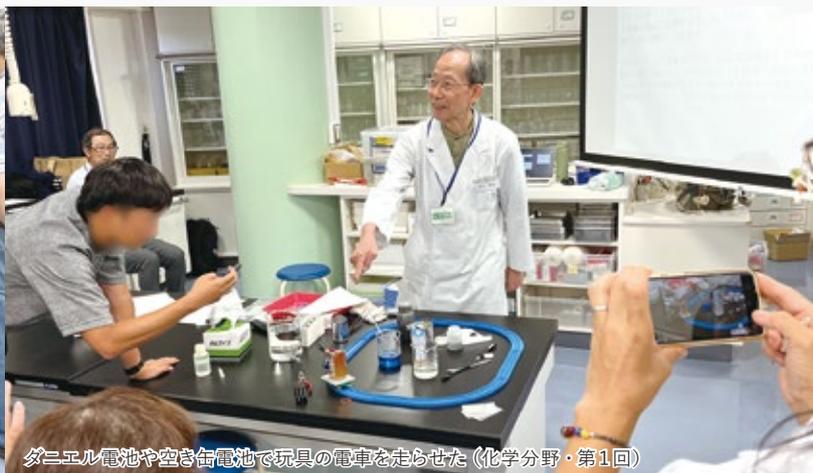
Tech Kids School

これからも理科の先生たちを支えるサポーターとして

当財団では、理科教員の先生方の日々の授業を支援するための講座・研修会を毎年実施しています。これらの催しは毎回大きな成果を上げており、参加者から、実験のスキル向上、授業の改善につながったという声が多く寄せられています。今号では 2025 年度に開催された2つの講座・研修会の現場の様子や反響をご紹介します。



凸レンズをのぞくと見える実像・虚像を観察 (物理分野・第1回)



ダニエル電池や空き缶電池で玩具の電車を走らせた (化学分野・第1回)

ベテラン教師が伝授する“すぐ授業に生かせる理科実験”

2025年度「教員のための理科実験スキルアップ講座」

東京応化科学技術振興財団 助成

理科教員の皆様から毎年大変好評をいただいている「教員のための理科実験スキルアップ講座～ベテラン教師による実践的理科実験極意の伝授～」を、2025年度も8月と11月に4分野に分けて開催しました。今年度もさらに工夫を凝らし、分野によっては屋外でのフィールドワークも取り入れながら、授業で効果的に実験を行うための手法を伝授し、参加された多くの先生方にご満足いただきました。

「教員のための理科実験スキルアップ講座」とは

同講座は、「青少年のための科学の祭典」全国大会の実行委員が講師を務める、教員向けの実践型研修講座です。公益財団法人東京応化科学技術振興財団の助成を受け、夏季・秋季に物理・化学・生物・地学の4分野で各2回実施しています。児童生徒の興味・関心を引き出す実験の工夫や、学校現場で再現しやすい指導方法を紹介し、実験への苦手意識を軽減するとともに、参加者が実験を体験しながら授業力の向上を目指す点が大きな特長です。



北の丸公園で植生調査の方法の一つ「ヨドレート法」を解説 (生物分野・第2回)



フィールドワークに出て館周辺の地形・史跡を科学的に解説 (地学分野・第2回)

実験の楽しさを実感しながら

2025年度は、8月に第1回(参加者61名)、11月に第2回(参加者52名)の計2回、本講座を実施しました。

8月の第1回では、生物「骨と筋肉のしくみと進化」、化学「電池とその反応」、地学「望遠鏡を見る、望遠鏡で見る」、物理「凸レンズによってできる像」をテーマに、基礎から授業に活用できる内容を学びました。工作工程が多く、当初は苦手意識を口にする参加者も見られましたが、望遠鏡を完成させて実際にのぞき込んだり、観察器具を用いて像の変化を確かめたりするうちに、次第に表情が和らぎ、楽しみながら学ぶ様子が印象的でした。

11月の第2回では、生物「野外における自然観察の調査方法」、化学「物質の状態変化と沸点、融点」、地学「フィールドワーク」、物理「仕事とエネルギー」を取り上げ、屋内外で多様な観察・実験を実施しました。北の丸公園でのフィールドワークでは、植物を撮影しながら講師の解説に耳を傾け、自然に触れつつ理解を深める参加者の姿が見られました。

学校現場へ還元できる講座に

参加者からは、「観察材料が手に入りやすく、失敗が少ないため授業に導入しやすい」「講座で学んだ内容を実際の授業で活用したところ、同僚からも好評だった」など、実践につながる感想が多く寄せられました。さらに、「具体的な指導のポイントが理解でき、すぐ授業に生かせる」「教科横断的な視点が得られた」といった声もあり、本講座が教員の専門性向上に寄与していることがうかがえます。

また、2025年度秋開催よりSNSによる情報発信を強化し、新規参加者への周知にも取り組みました。今後も実行委員会の先生方と連携し、教員が理科実験を楽しみながら学び、その成果を学校現場へ還元できる講座づくりを進めてまいります。

(人財育成部 齊藤 幸子)

●夏季(第1回)

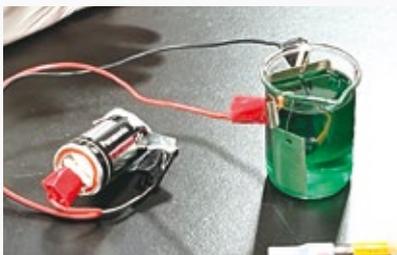
物理分野



8月24日(日)「凸レンズによってできる像」凸レンズの焦点、凸レンズが作る実像と虚像、作図による凸レンズが作る像の解説を行った。

参加者の声:「生徒全員分の光学台は用意できませんが、各自で手作りして実験が行えそうです。」「曖昧だった実像と虚像の認識が深まりました。」

化学分野



8月23日(土)「電池とその反応」マンガン乾電池の構造、簡単ダニエル電池の作成、銅板にニッケル鍍金で文字書き等を行った。

参加者の声:「メッキのコツをつかむのは難しかったですが、とても勉強になりました。」「実験などを通して実践的な力を高めていきたいです。」

生物分野



8月23日(土)「骨と筋肉のしくみと進化」理科における骨・筋肉の扱いとその働き、関節の種類と動き、膝蓋腱反射反応などを解説した。

参加者の声:「手羽中や桜でんぶを用いた観察方法は手に入りやすく失敗が少ない実験例として、学校の他の先生方からも高く評価されました。」

地学分野



8月24日(日)「望遠鏡を見る、望遠鏡で見る」天体望遠鏡の歴史解説、ガリレオ式望遠鏡制作、屋上での天体望遠鏡を使った天体観察を行った。

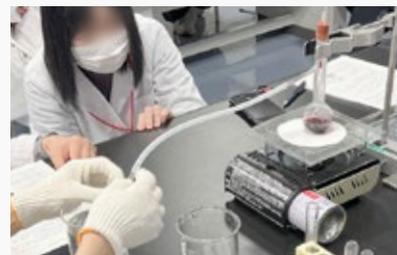
参加者の声:「宇宙は生徒が興味がある分野なので、気軽に観察ができるよう望遠鏡を探し常設しようと思います。」「初めて黒点を観察できました。」

●秋季(第2回)



11月24日(月・振)「仕事とエネルギー」仕事の定義、仕事が物体に与える効果、エネルギー、力学的エネルギー保存の法則を解説した。

参加者の声:「生徒目線で取り入れやすく、特にV字振り子にすることで、振り子が常に同じ位置を通るよう工夫されている点が参考になりました。」



11月16日(日)「物質の状態変化と沸点、融点」ドライアイスの加圧下での液化現象、赤ワインの蒸留、減圧下での水の低温沸騰などの観察を行った。

参加者の声:「実験の具体的な指導の仕方について勉強になりました。」「ドライアイスの液化や水の減圧沸騰は、演示実験で効果的に使えそうです。」



11月16日(日)「野外における自然観察の調査方法」北の丸公園内において、植生観察、昆虫の捕獲法や見つけ方の解説、鳥類の生態観察を行った。

参加者の声:「先生の現地での生解説が分かりやすく、実際に歩きながら観察できたのが良かったです。」「ビニール紐での植生調査を実践します。」

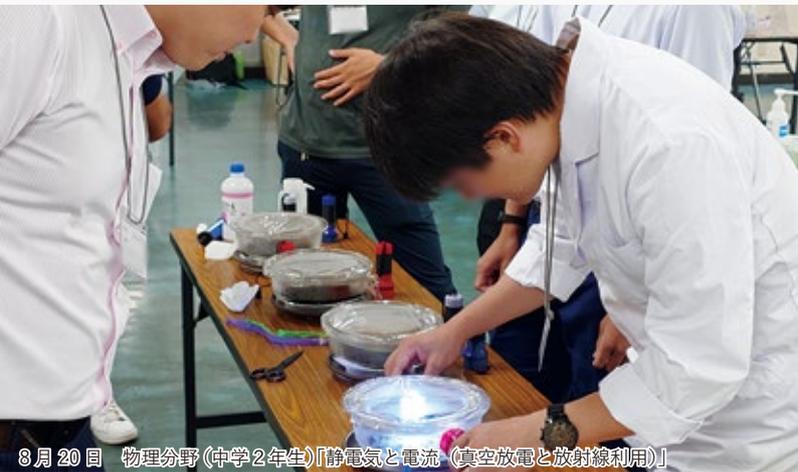


11月24日(月・振)「フィールドワーク」フィールド選定、地図作成、野外実習の際の注意事項などを解説し、フィールドワークを実践した。

参加者の声:「フィールドワークについてのポイントや授業の組み方が分かった。学校周辺で実践したい。」「地理・歴史にも触れられて楽しかったです。」



8月21日 地学分野(中学3年生)「地球の公転と見える星座の関係、月・金星の満ち欠け」



8月20日 物理分野(中学2年生)「静電気と電流(真空放電と放射線利用)」

理科教員に授業で観察実験を

2025年度「若手教員を対象とした理科実験(実習)研修会」

中谷財団 助成

若手中学校理科教員(在職10年以内)を対象に、科学技術館で研修会を開催しました。将来の理系人材の育成、中学生に理系思考を育むためには、理科の授業での観察実験の充実が欠かせません。2025年8月の「若手教員を対象とした理科実験(実習)研修会」、12月の「フォローアップ研修会」の開催、観察実験に関する情報共有や質問対応などを通じて、先生方との関係を深めています。

「若手教員を対象とした理科実験(実習)研修会」とは、当財団主催、東京都中学校理科教育研究会後援、中谷財団助成のもと、理科の教科書に掲載されている「定番実験」を安全かつ安心して取り組めるノウハウを提供する研修会を開催しています。学校現場での実践経験が豊富な先生方が講師を務め、「実験スキルの基礎力アップ」「授業で観察実験することへのモチベーション向上」などを目的としています。



8月19日 化学分野(中学1年生)「酸素と二酸化炭素の発生とその性質」



8月21日 「閉会式」で講師と参加者の先生方が活発に意見交換を行った

夏休み期間に実施

近年、若手の理科教員からは、「教科書通りに実験しても、なぜかうまくいかない」「安心して実験を行えるよう経験値を上げたい」といった声が多く聞かれます。こうした先生方の悩みに応えるため、当財団では、在職10年以内の先生方を対象に、「若手教員を対象とした理科実験(実習)研修会」を企画し、2023年より年1回、科学技術館で実施しています。

研修会では教科書にある「定番実

験」を確実に行うためのコツだけでなく、安心・安全に実施するためのノウハウをベテラン教員の講師から学びます。今年度は2025年8月19日(火)から21日(木)までの3日間、都内の中学校理科教員延べ68名にご参加いただきました。

講師1名に対して4名という少人数の受講者が、一人一点ずつの実験器具でじっくり学べることから、毎回すぐに定員となる大好評の本研修会。今年度からは中谷財団の助成により、期間が拡大した3日間で、中学1年生か

ら3年生の単元を、毎日一学年ずつ丁寧に扱う、さらに充実した内容となりました。

講師と参加者の情報交換の場

当日は、参加者4名ずつで1グループを作り、1講座40分、全6講座(物理分野2講座、化学分野2講座、生物分野1講座、地学分野1講座)を、休憩や昼食を挟みながら1日を通して順に受講していただきました。

各分野のベテラン講師からは、実験を成功させるためのポイントや失敗

例、安全管理上の留意点、授業で活用できる工夫などについて具体的な解説が行われ、参加者の皆さんが、熱心に質問をしてメモを取ったり、スマートフォンで記録したりする姿が見られました。

閉会式では、グループディスカッションの後、講師と参加者の間で活発な意見交換も行われました。観察実験の技術だけにとどまらず、実験結果の考察の進め方や、生徒への問いかけ方など、実践的な指導法のポイントについても触れられました。

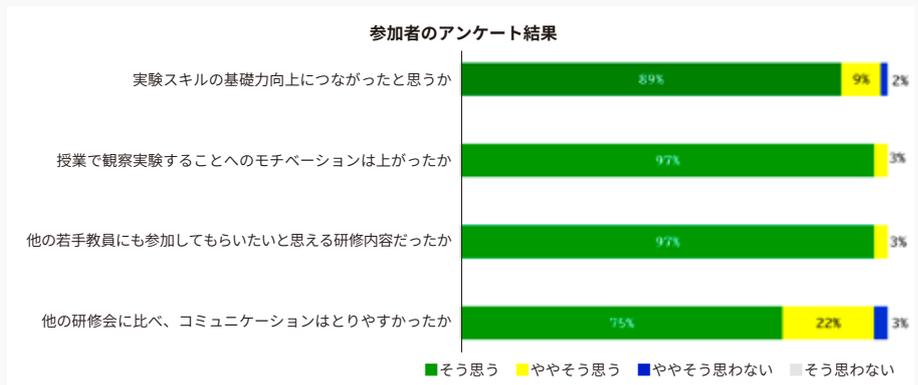
定番実験の意義を再確認できると評価

今回参加された若手の先生方からは、今回の研修会について、さまざまな声をいただきました。研修会プログラムの内容については、「教科書の定番実験とうたわれていましたが、深く

学ぶことでその意義や意味を再確認することができました」「自身の理科の授業の質を高めるためのアイデアや教材研究を深めることができました。実験を成功させるためのコツを教えてくださいました」といった声が寄せられました。また、少人数グループを構成して進めた運営面についても、「同じような経験年数の班構成であり、悩みや困ったことなどを相談できてよかったです」と、先生同士の対話を深めら

れた点も評価をいただきました。このように、高い満足度や今後の継続を期待する声が数多く寄せられ、参加者にとって大変有意義な研修会であったことがうかがえました。

本研修会で得た知識や技術が、若手教員の皆様の授業力と自信の向上につながり、理科を学ぶ生徒の皆さんの興味・関心を育む一助となることを願っています。〈総務室付エネルギー・環境プロジェクト／経営企画室〉



冬には「2025年度フォローアップ研修会」も実施 ～探究的な学習要素を取り入れ、より発展的な実験を学ぶ～

2025年8月に実施した「若手教員を対象とした理科実験（実習）研修会」に参加した先生方を対象に、同年12月27日（土）、科学技術館事務棟第3会議室にて「2025年度フォローアップ研修会」を行いました。

本研修会は、はじめに全体会を行い、その後、少人数のグループに分かれて4つのブースを回る実技研修会形式で分科会を実施しました。

全体会では、「学習指導要領に期待することは？」をテーマに、中央教育審議会理科ワーキンググループの動向を踏まえながら、これからの理科授業の在り方について、講師の先生に分かりやすく丁寧な講義をしていただきました。

分科会では、夏の研修で扱った教科書掲載の基本的な定番実験をもとに、探究的な学習の要素を取り入れた発展的な実験について、実技を交えながら学びました。

参加者からは、「来年もぜひ参加し



「霧箱実験（グループ型霧箱）～直径20cm大の霧箱を用いた自然放射線等の飛跡の観察～」



「探究的な単元計画の作り方～簡易テレプロンプターと簡易プロジェクターによる課題設定～」



「授業で使える簡易解剖講座～手羽先と鳥の頭の水煮を使った解剖実習～」



「モノづくりを通して理科の学ぶ意義を考える～スピーカーづくりローレンツ力の応用～」

たい」「次は今回参加できなかった若手教員にも声をかけたい」など、研修への意欲的な声が多く聞かれました。本研修会で得た学びが、若手教員のさ

らなるスキルアップにつながり、日々の授業を通して子どもたちに還元されていくことを期待しています。〈総務室付エネルギー・環境プロジェクト〉

「科学技術映像祭」をもっと身近に！



第 66 回入選作品を QR コードで紹介

この印刷物(ミウラ折り)は、一般財団法人日本宝くじ協会の助成を受けて社会貢献広報事業として助成を受け作成されたものです。



「科学技術映像祭」(主催:当財団、映像文化製作者連盟、つくば科学万博記念財団、新技術振興渡辺記念会)は、当財団にとって最も歴史ある事業のひとつ。全国から毎年、科学技術映像作品を募集し、優秀作品を表彰しています。昨年度から「学生部門」を新設したこともあり、さらなる普及を目指して、このたび「ミウラ折り」を活用したリーフレットを制作しました。関連イベントと共に、映像祭をより身近に感じていただくきっかけになれば幸いです。

動画も見られる！ ミウラ折り映像祭リーフレットを制作・全国配布

「科学技術映像祭」をより身近に感じていただく新たなツールとして、「ミウラ折り」を活用した紹介リーフレットが完成しました。一般財団法人日本宝くじ協会に助成を受けて制作された本リーフレットは、折り紙の一種であるミウラ折りの仕組みを採用し、コンパクトに折り畳める一方、広げると一度の動作で全体が展開される特徴を持っています。この構造は地図や宇宙での太陽光パネルにも応用された発明として知られ、科学技術と創意工夫の好事例でもあります。

今回の制作では、学生層を含む新たな層への認知向上と、従来の紙媒体との差別化を意図しました。紙面には映像祭の概要に加え、ミウラ折りや QR コー

ドの開発経緯と開発メンバーからのメッセージを掲載しています。世界中で使われている QR コードは日本人による発明であり、ミウラ折りもまた日本発の独創的な発明です。いずれも「なぜこうなのか」という問いと創意工夫の積み重ねから生まれたものであり、未来を担う子どもたちに続いてほしいとの思いが込められたものです。

また紙面の QR コードからは「第 66 回科学技術映像祭」の入選作品の一部を視聴でき、紙面から映像へと体験が拡張されます。リーフレットは全国の科学館や発明クラブ等へ計 85,000 部を配布し、全国へ広く展開しました。

〈人財育成部〉



上) 未来を担う子どもたちへのメッセージが込められた

左) 対角線部分を持ってワンタッチで折り畳むことができる

関連イベント「科学技術映像との対話『知的好奇心を開放しよう』」開催



参加者は 100 名を超え、イベントは盛況のうち終了した

2025 年 10 月 26 日(日)、日本科学未来館で開催された「サイエンスアゴラ 2025」にて、「科学技術映像との対話『知的好奇心を開放しよう』」を実施しました。「第 66 回科学技術映像祭」文部科学大臣賞受賞作「所さんの目がテン! 折り紙の科学」を上映し、司会の湯上響花さんの進行で、九州大学・斉藤一哉教授によるハサミムシの翅に着想した折り紙体験や、番組でおなじみの昆虫に詳しい平井文彦さんも登壇しました。後半では学生部門受賞作の上映と受賞者トークを行い、100 名を超える来場で活発な質疑が交わされ、科学技術への興味関心を広げる機会となりました。

「第 67 回科学技術映像祭」募集は 2026 年 4 月 1 日から開始します!

「第 67 回科学技術映像祭」では、科学技術を題材とした映像作品を募集します。一般部門と学生部門を設け、公式ホームページより応募を受け付けます。募集期間は 2026 年 4 月 1 日(水)~4 月 30 日(木)(消印有効)。優秀作には内閣総理大臣賞ほか各賞を授与します。

<https://ppd.jsf.or.jp/filmfest/>



※「QR コード」は株式会社デンソーウェブの登録商標です。

熟睡版ライブショー、 香りで癒やしの時間を演出

2025年も勤労感謝の日に、科学技術館4階「シンラドーム」が「寝良導夢」に変身し、「科学ライブショー『ユニバース』〈熟睡版?!〉～熟睡プラ寝たりウム～」を開催しました。3回目となる今回は、ラベンダーとゼラニウムの香りで会場を満たす演出をご用意。心地よい香りに包まれてリラックスしながら、壮大な宇宙空間の世界をお楽しみいただきました。

当日の科学技術館から見える星座を天周スクリーンに投影した映像。夢の世界へと来場者をいざなった

今年も勤労感謝の日の2025年11月23日(日・祝)に、シンラドームにて科学ライブショー「ユニバース」〈熟睡版?!〉を開催いたしました。

この「ユニバース」〈熟睡版?!〉は、全国のプラネタリウムなどで一斉に行われる「熟睡プラ寝たりウム」(主催:日本プラ寝たりウム学会)に参加して行ったプログラムで、明石市立天文科学館が、勤労感謝の日にプラネタリウムで日頃の疲れを癒やしていただくという趣旨のもと、2011年に「大人のプラネタリウム～熟睡プラ寝たりウム～」という大人向けの番組として特別投影を行ったのが始まりです。

このプログラムがお目当てのおお客様も

1施設から始まったこのイベントは、一昨年2024年には72施設(うち、オンライン参加3施設、参加人数7,347人)が参加する人気イベントとなりました。

科学技術館は2023年から参加し、今回が3回目の開催でしたが、お客様から「今日は『熟睡プラ寝たりウム』を目的に来館しました」との嬉しいコメントをたくさん頂戴するなど、このプログラムを楽しみにご来館いただくお客様も増えてきたように思います。

今回は、心身をリラックスさせる効果と、睡眠の質の向上にも役立つといわれているラベンダーとゼラニウムの香りで会場内を満たし、お客様をお迎えいたしました。

ライブショーの冒頭では、案内役を務める講師の質問に子どもたちが元気な声で答えてくれて、講師から「寝たい人いるので、もう少し小さな声でね」とお願いされる場面もありましたが、やがて頭上に大きな宇宙や星空が広がると、子どもたちは静かになり、壮大な宇宙空間に引き込まれていっているようでした。ライブショーが進むにつれ、会場内からは気持ちよさそうに寝ているお客様の心地よいいききが聞こえてきて、スタッフもつられて寝てしまいそうになりました。

香りを纏わせたプレゼントを来場者に

ライブショー後のアンケートでは、1回目(14時～)は「ちょっぴり眠くなった」が19%、「しっかり眠れた」が31%、「全然眠らなかった」が50%となり、2回目(15時半～)は「ちょっぴり眠くなった」が30%、「しっかり眠れた」、「全然眠らなかった」が共に35%という結果となりました。

お帰り際には、ラベンダーとゼラニウムのアロマの香りを纏わせた手作りのしおりのプレゼントをご用意し、お持ち帰りいただきました。手にしたお客様は皆、しおりを鼻に近づけて、「いい香り～」と香りをかぎながら会場を後にされていました。

来年はまた違った趣向で、皆様を快適な眠りの世界へご案内することができたらと思っております。

〈科学技術館運営部 菊地 哲世〉



入口に飾り付けた星を手に、案内役の矢治健太郎さん(左から3番目)、館スタッフで記念撮影



「全然眠らなかったよ!」。ライブショー後に、参加者のご家族らにアンケートにお答えいただいた



ラベンダーとゼラニウムの香りを纏ったしおり。来場されたお客様全員に記念のお土産として配布した

地域でつながろう。 そして輪を広げよう!

新生「千代田ミュージアムネットワーク」始動!

「魅力発見! 千代田ミューズ & パークシールラリー」に科学技術館も参加しました

千代田区内のミュージアムが連携して文化の振興を図る団体「千代田区ミュージアム連絡会」が2025年春、「千代田ミュージアムネットワーク (CMN)」として生まれ変わりました。これを記念して、昨年11月から今年2月頭にかけて「魅力発見! 千代田ミューズ & パークシールラリー」が実施され、科学技術館もこのイベントに参加しました。CMNの歴史と当館の関わり、そしてこれからの活動についてご紹介します。

2005年11月、千代田区内に所在する博物館等が互いに連携・協力し、区内に集積する知的資産をより有効に活用し、文化・芸術の振興に資することを目的とした団体「千代田区ミュージアム連絡会」が発足しました。区内・北の丸公園に位置する科学技術館も、原加盟館として参加しています。区広報誌『広報千代田』の毎月5日号にも「美術館・博物館などのお知らせ」が掲載されたり、毎年複数回の会議が開催されたりと、区内のさまざまな施設と一緒に活動する良い機会となっています。

この連絡会が2025年4月、設立20

周年を機に、新たに「千代田ミュージアムネットワーク (CMN)」(<https://museum.net.city.chiyoda.lg.jp/>)として生まれ変わりました。これを記念して、同年3月12日(水)から5月7日(水)まで、東京区政会館(区内・飯田橋)1階エントランスホールでパネル展示「千代田ミュージアムネットワーク誕生ミュージアムに出かけよう! 文化・芸術の集うまち千代田」が行われました。

当館にも多くのラリー参加者が来館

また、11月1日(土)から2026年2月1日(日)まで、多くのCMN参加館と皇

居外苑・北の丸公園・日比谷公園をめぐる関連イベント「魅力発見! 千代田ミューズ & パークシールラリー」が開催されました。

科学技術館はシールラリーの公園エリア・22番となり、青空の下の特徴的な外観をあしらったシールをラリー参加者にお渡ししました。エリア不問のシール2枚でクリアファイル、8枚でキーホルダーに加え、公園エリアのシール7枚でレジャーシートが景品として贈られる企画であったため、当館は数少ない有料入館エリアでシールを配布した施設ではありませんでしたが、日々多くのご参加の方にお越しいただきました。

博物館、美術館、図書館、文書館などの集まりであるCMNの、文字どおりネットワークを活かして、科学技術館も、ネットワーク全体、また参加館との連携を深めていきたいと考えています。

2026年度には、3階にCMN紹介コーナーがある千代田区立日比谷図書文化館(区内・日比谷公園)での千代田ミュージアムネットワーク連携企画に当館が登場する予定もあります。お楽しみに!

〈科学技術館運営部 松浦 匡〉



CHIYODA MUSEUM NETWORKの頭文字によるロゴ



左)「千代田ミューズ & パークシールラリー」のシート
右上) 科学技術館のシール
右下) 複数施設を回ること
で贈られた景品各種



地元の高校生ボランティアが子どもたちを笑顔でサポート

「冬だけど、海の科学教室」に千代田区・二松學舎大学附属高の生徒たちが参加

2025年12月21日(日)、当財団主催のワークショップ「冬だけど、海の科学教室」を科学技術館第一会議室で開催しました。今回は計2回の教室に、小学1年生から4年生までの児童計25人が参加。2024年から開始した同科学教室の参加者は、延べ500人を超えました。

この冬の特別な試みとして、当館と同じ千代田区にある二松學舎大学附属高等学校のボランティア同好会と理数科研究部にご協力いただき、顧問の横関先生と高校1年生の生徒さん4名が運営サポートに加わっていただきました。

教室では、海洋プラスチックごみ問題をテーマにしたオリジナル・カードゲームや、海の生物をお絵描きARアプリで動かすワークショップを実施。高校生の皆さんは、子どもたちに丁寧にやり方を教えたり、一緒にゲームの点数を計算したり、笑顔で励ましたりと、各テーブルで親身になって子どもたちのサポートをしてくださいました。

科学館での活動は初めてとのことでしたが、接するうちに子どもたちとも打ち解け、自然体でサポートをし、時には「よく



上・右) 海洋問題のカードゲームの進行をサポートする同好会の皆さん。それぞれの個性を生かし、子どもたちにとって頼もしい存在となってくださいました



左から、二松學舎大学附属高の西森さん、高井さん、顧問の横関先生、桑原さん、高木さん

生徒の皆さんにボランティア活動について聞きました

西森さん:「今回は子どもが自ら主体的にやっているのを見て、小さい時のこうした経験は貴重だと思いました。また参加したいです」

高井さん:「私は看護系を目指していますが、将来いろんな人と関わることになると思うので、こうした活動はいい経験になります」

桑原さん:「将来の夢は、何か人のためになること、喜んでもらえることをしたいので、そうした活動を今からやっていきたいです」

高木さん:「これまで保育園や子ども食堂にも行きました。この活動では、学校でふだん学べないことをたくさん経験できています」

できたね」と拍手をして一緒に喜ぶなど、会場を温かい雰囲気の中で包んでくださいました。同好会顧問の横関先生は、「このお話をいただいた時、生徒が子どもたちと一緒に活動できる場を増やせたらと思いましたが、実際に学びを広げる良い機会になりました」と話され、生徒の高木さんも「海洋問題などを教えながら、自分も学ぶ

ことができたのがすごく貴重な体験になりました」と語ってくださいました。

終了後、生徒の皆さんに「また参加したいですか?」と尋ねると、全員が迷わずうなずいてくれた姿が印象的でした。この教室が、子どもたちだけでなく、生徒の皆さんにとっても良い体験になっていれば嬉しく思います。 (経営企画室/人財育成部)

科学の祭典は「地方大会」もおおにぎわい!

秋の「青少年のための科学の祭典」地方大会から



左) 愛媛大学で開催された「松山大会」の様子。講義室も実験ショーの会場に変身/中) 建物の外壁には大きな垂れ幕が/右) 実験工作に熱中する子どもたち

当財団では、毎夏「青少年のための科学の祭典 全国大会」を科学技術館で開催していますが、全国でも、各地の団体が主催するかたちで同祭典の「地方大会」が開催されており、その数は2025年度は全国52カ所に上ります。この秋から冬にかけての「地方大会」のうち、10月25日(土)、26日(日)に愛媛大学で開催さ

れた「松山大会」を訪問したので、現地の様子をご紹介します。

当日はあいにく小雨もぱらつく天気でしたが、両日で2,000人以上の来場者が訪れました。会場では、大勢の先生、学芸員や学生ボランティアの皆さんが、テーマごとに、子どもたちに科学技術の実験・工作の指導を行っていました。地方大会

も、全国大会同様たいへん盛況で、多くの子どもたちが参加して目を輝かせているのが印象的でした。また現地では、祭典に携わっている先生方を中心に交流も図り、祭典運営のための課題(企業様の参画の拡大、後継者問題など)についても共有しました。

当財団では、今後も各地での祭典を訪れ、運営に協力していきたいと考えています。 (大久保 賢一)



2025年11月23日(日・祝)には、茨城県・日立シビックセンターマープルホールで「日立大会」を開催。屋外でのハヤブサのフライトや茨城大学生によるフォーミュラカー走行など、地域に根差した独自の演目も!



地方大会の詳細については、「青少年のための科学の祭典」ウェブサイトをご覧ください

季節のイベントを演出する

「サイエンス・マルシェ at クリスマス」の試み

科学技術館では、来館されるお客さまに季節の雰囲気を感じていただけるよう、その時季ならではの飾り付けや実験・工作プログラムを行っています。この冬は、スタッフがクリスマスらしい演出を取り入れて工夫したさまざまなワークショップを実施し、ご家族連れを中心に、季節を感じながら楽しく科学に触れていただきました。科学技術館運営部の各担当スタッフが、こうした取り組みの現場の様子をご紹介します。



「カラフルなクリスマスカードをつくろう！」で準備した工作材料のセロハンと手順書

光と色の三原色の演示を交えて。

「カラフルなクリスマスカードをつくろう！」

2025年12月6日(土)、7日(日)に科学技術館5階の展示室「ワークス」にて、「色の三原色」と「光の三原色」を使った工作イベントを開催しました。インストラクターが主催し、2日間で50名の方にご参加いただきました。

イベントではまず2種類の「三原色」を紹介する実験演示をし、参加者にも手元のセロハンを動かしてもらいながら変化を見ていただきました。工作では、セロハンを自由に切って重ね、ツリーに飾り付けることで参加者の個性が際立つ仕上がりとなりました。また、季節を取り入れ、幅広い年代の方にお楽しみいただける内容にしたことは、科学に興味を持つきっかけづくりになったと実感しています。今後も参加者のニーズを取り入れた、当館ならではのイベント開発に努めていきたいと思ひます。

〈海老澤 日奈〉



左) 完成したクリスマスカードを持って記念撮影! 可愛くできました(下) インストラクターと一緒にカードの組み立てを行う参加者ご家族



Chim-Donひろばで「Xmasスイーツ缶づくり」&

「クリスマスクッキーキーホルダーをつくろう★デコろう」

毎月1回開催中の、科学のお話と工作が楽しめる「Chim-Donひろば」。2025年4月の「さくらまつり」、8月の「科学捜査展returns」に続く第三弾として、12月14日(日)にクリスマス向けプログラムを実施しました。建築資材のシリコンコーキング剤を生クリームに見立て、缶の蓋やクッキー風ベースに絞ってデコレーション。小さなパティシエたちは、隙間なく丁寧に生クリームを絞り、サンタクロスやクリスマスツリーのオブジェを飾って仕上げていきます。完成した作品を前に笑顔が広がり、クリスマスの思い出とともに心に残る一日となりました。

〈遠藤 紀子〉

右) チョコレートクリーム(茶色のコーキング剤)を慎重に絞ってデコレーション(下) パティシエ気分でクリームを絞ってデコレーション!



貴重で満足度高い体験に。

「ガラス皿でクリスマスプレートをつくろう」

クリスマス前の需要を見込んで2025年12月20日(土)に同イベントを開催しましたが、当日は来館者が少なく、参加者は親子一組のみとなりました。クリスマスプレート用に2種類のガラス皿とそれぞれの大きさに合わせてデザインしたクリスマスシールを用意しました。クリスマスツリーや雪の結晶を中心とした繊細なシールは切り込みが細かいため、ピンセットを使いながらひとつひとつ丁寧に剥がし、プレート上に思い思いの配置でデザイン。今回は通常のシール貼りに加え、「砂の吹き付け」工程も体験していただきました。参加者からは「時間をかけて制作でき、吹き付け作業もとても楽しかった」との声をいただき、貴重で満足度の高い機会となりました。

〈遠藤 紀子〉

右) クリスマスツリーを中心に、雪の結晶や星などのシールを貼り付けてデザインします(下) 砂を吹き付ける「サンドブラスト加工」を自身で施し、シールを剥がしたら完成!



不思議なつぶつぶができたよ。

「アルギン酸でつぶつぶボトルをつくろう！」

2025年12月21日(日)に「アルギン酸でつぶつぶボトルをつくろう！」を開催しました。つぶつぶの正体は昆布などの海藻からとれる「アルギン酸ナトリウム」です。「アルギン酸ナトリウム」水溶液が、除湿剤などに使われる「塩化カルシウム」の水溶液と触れ合うとゲル状に固まる化学反応を利用した工作で、原理としては「人工イクラ」と同じです。今回はアルギン酸を赤・緑・白のクリスマスカラーに着色し、サンタの飾りなども用意しました。

スポイトで一滴ずつ落とす作業は単純ですが、少々コツがいります。落とす高さや勢いによって形が変わることがあるので、参加された方々は真剣な表情で練習を繰り返し、丁寧に取り組んでいました。最後にはとてもきれいな形の子つぶつぶが完成していました。

〈高橋 可那子〉

左) 落とす方で形が変わることがあるので、慎重に作っていました(下) アルギン酸クイズでは正解者はガッツポーズをしていました



図形の面白さを工作で伝える。

「立体図形を楽しもう! ~起き上がる『錘(すい)』と『柱』~」

2025年12月20日(土)、21日(日)に、糸を引っ張ると立体模型が出来上がる工作ワークショップを開催しました。今回の模型は四角錐と四角柱。「柱」は小学4年生、「錘」は中学生で学習しますが、生活の中や玩具で目にする立体として、小さなお子さんにもおなじみの形です。勉強として考える前に、立体図形に自然と興味を持ってもらえるよう、図形の展開図に通した糸を引くとムクムクと柱と錘が起き上がる楽しい仕掛けを施しました。紙に穴を開け、糸を通して台紙に固定すると皆、恐る恐る糸を引きます。思い通りの立体図形が現れた瞬間の「すごいすごい!」という歓声と、「なるほど～」と図形を見つめる眼にスタッフも大きな喜びを感じました。

〈高橋 葉子〉

右) 展開図に通した糸を引くと……平面がムクムクと起き上がった! (下) 錘と柱の特徴や作り方を教わる子どもたち。図形って楽しい!



ハロウィンや節分も!
季節を彩るさまざまな
館内イベント・演出



2025年10月12日(日)、13日(月)、「レジキキーホルダー作り ハロウィンバージョン」を4階ワンダー・ガレージにて開催しました。ハロウィンをテーマに暗闇で光るキーホルダーを作るこのイベントは、Instagramでの告知効果もあり、多くのおさんが参加し制作を楽しみました。また5階「FOREST」の掲示板では季節ごとにスタッフ手作りの飾り付けを行っており、節分前には可愛い節分飾りを掲示しています。いつ来ても楽しい科学技術館であるよう、スタッフ一同、季節ごとにアイデアを持ち寄って工夫を凝らしています。

歴史学習と実体験を通じて、もっと「鉄」を知る

「ものづくり体験—たたら製鉄実験イベント」



実験本番では実際に炉を使い砂から鉄をつかった



事前学習会では「鉄」の歴史とつくり方を学んだ

2025年11月15日(土)に①製鉄所見学、29日(土)に②事前学習会、30日(日)に③たたら操業の3本立てで、「ものづくり体験—たたら製鉄実験イベント」を、一般社団法人日本鉄鋼連盟、国立大学法人東京科学大学と当財団・科学技術館との共催にて開催いたしました。

「たたら製鉄」とは砂鉄から鉄を取り出す日本古来の製鉄技術です。現在の製鉄は鉄鉱石を原料として高炉で大量につくられるためほとんど行われていない技術ですが、製鉄の歴史や実体験を通して鉄をもっと知っていただくことを本イベントの目的としています。

①は日本製鉄株式会社のご協力、②と③は東京科学大学にて、任意団体「ものづくり教育たたら連絡会」の渡邊玄氏らによるご指導を賜りました。
 〈科学技術館運営部 荻野 亮一〉

きみは最後までボールをゴールに運べるか？

新展示物「ゆらゆらバランスボール」が登場！



左) ゲームに挑戦するお子さん。何度も何度も諦めずに挑戦！
 上) 左側が「かんたんコース」、右側が「むずかしいコース」。右側は難易度高し！

科学技術館5階ワークスの演示テーブルに2025年11月、新展示物「ゆらゆらバランスボール」が登場しました。これは左右のスライダーを上下に動かし、中央のバーの傾きを調整しながらボールを動かしゴールに入れるゲームです。穴に落ちたボールがスタート位置に戻るようになっており、バーを下までおろすとボールがバーの上ののるようになっています。子どもから大人まで楽しめるように、「かんたんコース」と「むずかしいコース」の2種類を作りました。バーのわずかな傾きで勢いよくボールが転がるので、何度も繰り返し熱中して遊んでいる子どもたちが多いです。コースの盤面は取り外しできるになっているので、今後コースが変わるかも。お楽しみに。
 〈科学技術館運営部 横山 力〉

リニューアル前の記念館(展示館)をオンラインで楽しもう！ 「バーチャル!所沢航空発祥記念館」公開中



「バーチャル!所沢航空発祥記念館」や最新の情報は公式ウェブサイトからご覧いただけます。

上)「バーチャル!所沢航空発祥記念館」であらわれる全体図/下)バーチャル記念館の中で見られる展示館1階。昨夏までの様子が映像で記録されている

所沢航空発祥記念館は、大規模リニューアル工事に伴い2025年9月より2027年3月末(予定)まで長期休館していますが、休館前の展示館の展示を、バーチャル空間を通じてオンラインで楽しめる「バーチャル!所沢航空発祥記念館」を記念館ウェブサイトで公開しています。スマートフォンやパソコンを使って視聴でき、画面上で操作することで展示館内を360度見渡せ、まるで展示館を歩いているかのような体験ができます。バーチャル空間のロビーでは、1911(明治44)年に所沢で設計・制作・飛行された会式一号機(復元レプリカ)を頭上に見ることができ、展示館に入ると、地上や空中に多数の航空機やヘリコプターを見ることができます。展示館1階では、日本と世界の航空のはじまりを紹介した「飛ぶあゆみ」コーナー、2階では日本初の飛行場・所沢飛行場の歴史を紹介した「所沢メモリアルギャラリー」などの展示がありますので、ぜひオンラインでお楽しみください。

長期休館中ではありますが、ひこうき工作教室等の活動は続けており、公式ウェブサイトですぐご案内しています。2027年春予定の刷新オープンまでどうぞお楽しみください。
 〈航空記念館運営部〉

JSF Bulletin Board / JSF 掲示板

新展示室「家電リサイクルワールド」3月オープン!



新展示室の完成イメージ図

2026年3月6日(金)15時頃、科学技術館3階E室に新展示室「家電リサイクルワールド」(一般財団法人家電製品協会出展)がオープンします。

さまざまな体験型の展示で、エアコン、テレビ、冷蔵庫、洗濯機といった「家電4品目」のリサイクルを軸に、私たちの暮らしと資源の関係を紹介します。どうぞご期待ください。

〈科学技術館運営部〉

ご支援・寄付のお願い (一般の個人様向け)

公益財団法人日本科学技術振興財団は、科学技術館の運営をはじめ、理科好きの子どもたちを増やし、理系を志す青少年を育成する活動を通じて、社会への貢献に努めております。これらの活動を維持・発展させていくために、皆様からのご寄付を受け付けております。

子どもたちの理科離れは、我が国の大きな社会的課題となっています。当財団は、子どもたちに科学技術の不思議や面白さ、そして社会における役割を、さまざまな取り組みを通して理解してもらう活動を行っており、こうした活動を通じて、次世代の研究者・技術者の育成を目指しております。

私たちの活動趣旨にご賛同いただき、日本の未来を支える取り組みにご支援を賜りますようお願い申し上げます。

〈経営企画室〉

日本科学技術振興財団ウェブサイト「寄付のお願い」ページ
<https://www2.jsf.or.jp/support/donation/>
こちらから、詳細・お申込み方法をご覧くださいませ。



賛助会「北の丸科学技術振興会」入会のご案内

皆様のご支援とご協力に感謝いたします。

公益財団法人日本科学技術振興財団では、当財団の賛助会「北の丸科学技術振興会」にて会員の方を募集しております。

将来にわたって日本が科学技術先進国であり続けるために、当財団は、次代を担う理工系人材の育成を主眼に置き、子どもたちの科学技術への興味・関心を高めるためのさまざまな活動を行っております。こうした活動を維持・発展させるため、当財団は2011年4月、「北の丸科学技術振興会」を設立し、企業、団体、個人様に、活動資金などのご支援と協力をお願いしております。当財団の趣旨にご賛同いただき、ぜひ当会にご入会いただければ幸いです。

●詳細は下記 URL からご覧いただけます。

日本科学技術振興財団ウェブサイト内
<https://www2.jsf.or.jp/support/membership/>

〈経営企画室〉

賛助会員企業・団体名 2025年12月26日現在(五十音順)

アサヒ飲料株式会社/旭化成株式会社/株式会社伊藤園/江崎グリコ株式会社/NEC ネットズエスアイ株式会社/株式会社エヌ・ティー・エス/NTT 株式会社/株式会社旺文社/一般財団法人大阪科学技術センター/花王株式会社/学校法人科学技術学園/公益財団法人科学技術広報財団/公益社団法人科学技術国際交流センター/鹿島建設株式会社/株式会社関電工/キヤノン株式会社/協和キリン株式会社/クミアイ化学工業株式会社/コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社/公益財団法人産業雇用安定センター/サントリービバレッジソリューション株式会社/JFEスチール株式会社/潮見サービス株式会社/株式会社島津製作所/STEAMS LAB JAPAN 株式会社/株式会社 SUBARU/住友化学株式会社/公益財団法人全日本科学技術協会/損害保険ジャパン株式会社/株式会社第一工芸社/大同特殊鋼株式会社/高砂香料工業株式会社/中外製薬株式会社/THK株式会社/東京応化工業株式会社/東京キリンビバレッジサービス株式会社/有限会社東興エステート/株式会社東芝/東レ株式会社/日本化薬株式会社/日本精工株式会社/日本製鉄株式会社/公益財団法人日本海洋科学振興財団/一般財団法人日本鯨類研究所/一般社団法人日本鉄鋼連盟/日本電子株式会社/一般財団法人パイオインダストリー協会/一般財団法人光産業技術振興協会/日立建機株式会社/株式会社日立製作所/三井化学株式会社/三井不動産株式会社/三菱重工業株式会社/三菱商事株式会社/リコージャパン株式会社/理想科学工業株式会社/一般財団法人リモート・センシング技術センター/株式会社レノナック・ホールディングス

日本科学技術振興財団・科学技術館インフォメーション

当財団・科学技術館の情報は以下のQRコード(二次元コード)よりアクセスし、ご覧いただけます。



日本科学技術振興財団



科学技術館



JSF TODAY



メールマガジン



X



Instagram

編集後記

『ドラえもん』に出てくる「どこでもドア」がほしいなあ、と、誰しも一度は思ったことがあるはずです。この秋冬も、科学技術館ではいろいろなテーマのイベントが行われましたが、その様子を見てあらためて実感したことは、「科学の世界へ飛び込むドアは、本当にどこにもあるなあ」ということです。館内だけでなく、空を見上げたり、家でくつろいだり、ゲームしたり、何かを工作してみたり。こうした日常の全ての瞬間に、新しい世界へと続くドアがあります。科学技術館でもお家でも、気になるものを見つけたら、ぜひその「ドア」をトントンと叩いてみてくださいね。〈永〉

なにこれ!? 科学技術館事典

FUNNY ENCYCLOPEDIA OF SCIENCE MUSEUM

凡例 ●本事典は、科学技術館内の展示ならびに演示について解説したものです。●本文は、かな表記【名称】〔英語表記〕(ジャンル・展示室名等) 説明文の順に配列しています。●ご紹介している展示物やプログラムは、科学技術館にお越しいただき、実際に体験し、存分に楽しんでいただくことをお勧めします。

かがくぎじゅつかんのばいてん【科学技術館の売店】 〔Light Meals & Refreshments〕(名・施設)

- ① 4階の階段踊り場付近にある、軽食レストラン兼売店。ほんのり光る「コーヒー&レストラン」の文字看板が、どこか懐かしいノスタルジアを醸し出す。館内を遊び回ってお腹を空かせた人々が、しばし羽を休める休息地でもある。
- ② 午前11時の開店とともに店内は家族連れでにぎわっていく。メニューはそば、うどん各種、ラーメン、カレーライス、オムライスといった、日本人のDNAに深く刻まれた王道メニュー。また、アメリカンドッグ、お菓子、アイスクリームも並び、その様は昔近所にあったお菓子屋さんのものである。
- ③ こうした王道メニューの中に、隠れた一品がある。ウガンダの農園から直輸入した農業不使用のフェアトレード・コーヒーである。豆のうまみを引き出す浸漬式ドリップで淹れた、爽やかで深みのある一杯は、館内で歩き疲れた大人におすすめだ。
- ④ 混雑していないときは、会計カウンターで、子どもがご家族に代わってお金やカードを差し出し“お会計チャレンジ”をする光景もしばしば。うまくできたらスタッフもニコリ。



カウンターに立つのは、売店運営を担当する日本冷凍食品販売株式会社のオーナー・店長の宮崎さん(左)と、ほがらかに店を切り盛りする売店スタッフのひとり、小樋山さん

売店(名・施設/4階)



科学技術館4階、「鉄の丸公園一丁目」と「シンラドーム」との間に位置する館内売店。軽食とスナック、菓子類、ドリンク類などを販売・提供しています。店内席は10テーブル・40席。一部の軽食はお持ち帰りも可能です。不定休。
平日：11:00~16:10 (LO15:30)
土日祝日：11:00~16:30 (LO15:50)
https://www.jsf.or.jp/exhibit/light_meals/

科学技術館のご利用案内



鉄道 東京メトロ東西線 竹橋駅下車(1b出口) 徒歩約550m
東京メトロ東西線・半蔵門線、都営地下鉄新宿線 九段下駅下車(2番出口) 徒歩約800m

自動車 首都高速都心環状線(外回り) 代官町出口からすぐ
首都高速都心環状線(内回り) 北の丸出口からすぐ
※科学技術館には専用駐車場はございません。北の丸公園内の有料駐車場等をご利用ください。

開館時間：開館 9時30分、閉館 16時50分(入館は16時まで)

休館日：一部の水曜日(休日の場合は次の平日)
※ただし、学校の長期休みなどの水曜日は開館します。
年末年始(12月28日~1月3日)

入館料金

	大人	中学生・高校生	子供(4歳以上)
個人	950円	600円	500円
団体	710円	450円	350円

※65歳以上の高齢者の方や障害者の方などの特別割引もございますので、証明書や手帳等をチケットカウンターにてご呈示ください。

所在地：東京都千代田区北の丸公園2番1号
WEB：<https://www.jsf.or.jp/>
TEL：03-3212-8544



科学技術館ウェブサイト